

2010年6月16日

ニュースリリース
株式会社五藤光学研究所

高輝度LED光源による小型恒星球 「PANDORA」の販売開始について

株式会社五藤光学研究所（東京都府中市：取締役社長 五藤信隆）は、LED光源を用いた新型恒星球「PANDORA（パンドラ）」を開発し、本日より販売を開始いたします。

同機は、仙台市天文台で開催された「全国プラネタリウム大会2010・仙台」（主催：日本プラネタリウム協議会）にて、発表いたしました。

株式会社五藤光学研究所（取締役社長：五藤信隆、東京都府中市）は、天文機器に関する総合メーカーである。1926年の創業時は小型天体望遠鏡を製造。1959年には光学式プラネタリウムの開発に成功し、日本及び世界各地に同設備を納入。2004年からは光学式プラネタリウムと全天周デジタル映像システムを融合させた「GOTO ハイブリッド・プラネタリウムシステム」を開発。国内外に数多くの納入実績がある。

2010年3月には、世田谷区立教育センター（東京都世田谷区）に、最微等級18.0等星、約1億4千万個の恒星を投映する「CHIRON（ケイロン）」を納入。現在、世界最大数の恒星を投映することが出来るプラネタリウムとして知られている。

今回、開発した小型LED光源による新型恒星球「PANDORA（パンドラ）」は、前述のケイロンを小型化したものであり、直径6～15m（推奨12m）に対して、恒星数4,000万個（天の川恒星を含む）にも及ぶ、自然で美しく、明るい恒星を投映することが出来る。

PANDORAは、恒星球単独で設置すれば、様々なイベントや舞台装置として使用することが出来る。更に、惑星投映機や様々な座標を加えた場合にはプラネタリウム機として、ビデオプロジェクターや制御エンジンと組み合わせた場合には「ハイブリッド・プラネタリウム」として使用することが出来る。

PANDORAは、全能の神ゼウスが鍛冶の神ヘパイストスに命じて、女神によく似せて作らせた美しい人間の名前であり、技芸、知恵、美貌と魅力などを兼ね備え、あらゆる贈り物を与えられた意味とされる。“災厄が詰まった箱（壺）”の代名詞として「パンドラの壺（箱）」が有名だが、PANDORAはこの壺から“希望”を守った存在として知られている。

PANDORAは、2010年に国内1ヶ所、2011年に華川天文台（大韓民国江原道）への設置が決定している。



< 解説 >

株式会社五藤光学研究所（GOTO INC）

プラネタリウム、大型映像システム、天体望遠鏡製造のトップメーカー。特にプラネタリウムでは国内シェアの約7割を占めている。全天周フィルム映像（アストロビジョン）や3Dデジタル映像装置（バーチャリウム）を他社に先駆けて開発、発表する他、機器設備の能力を活かした映像コンテンツ制作も行う「ドーム空間のトータルクリエイター」である。

〒183-8530 東京都府中市矢崎町四丁目16番地
オフィシャルHP <http://www.goto.co.jp/>

ハイブリッド・プラネタリウム（HYBRID PLANETARIUM）

株式会社五藤光学研究所が開発、提唱する新しいプラネタリウムシステム。光学式プラネタリウムと、様々な迫力ある映像を投映する全天周デジタル映像システムを組み合わせ、各々が常に同じ座標空間を投映できる仕組みを有するものである。

同システムを構成する光学式投映機「CHIRON（ケイロン）」は、鹿児島市立科学館、千葉市科学館、さいたま市青少年宇宙科学館、仙台市天文台、ナッシュビル・アドベンチャーセンター（米国テネシー州）、藤沢市湘南台文化センターこども館、世田谷区立教育センター、Planetarium Nay Pyi Taw（ミャンマー）に納入されている。

ハイブリッド・プラネタリウム (HYBRID PLANETARIUM)、バーチャリウム (VIRTUARIUM)
は株式会社五藤光学研究所の登録商標です。

以上